

—この世に生を受けた
こと。それ自体が最大の
チャンスではないか—

アイルトン・セナ※

※Ayrton Senna (1960-1994)...80年代後半から90年代にかけて数々の記録を打ち立て、音速の貴公子と呼ばれた天才F1ドライバー。1994年5月1日サンマリノGP決勝で事故死。



◆ 萌学舎卒業生の「わが校」紹介 新座総合技術高校電子機械科1年 長谷川 陽大くん

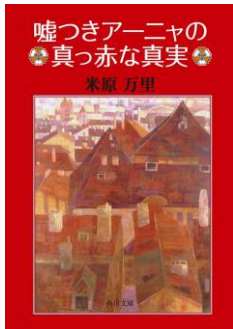
私の通っている新座総合を紹介します。まず、学習面について。専門の授業は主に週9時間あります。そのうちの5時間は実習(主にロボットの組み立て)をします。残りの4時間は生産システム技術や情報技術基礎といった学科です。学科の授業は制服で受けますが、実習の時間は作業服に着替えます。実習の時間内にその日のノルマが終わらなければ放課後にやらなければなりません。電子機械科では毎週レポートを書き、その週のうちに提出しなければなりません。レポートには、実習の作業内容の確認や感想を書きます。提出が遅れた場合にはもう一度同じ内容を書いて提出しなければならないので、遅れると大変なことになります。レポートの量は多いので事前に書ける部分は書いておいた方がいいです。電子機械科の先生は全員で7名います。厳しく指導してくれるおかげで専門の授業がわかりやすく、また、社会に出て恥ずかしくないよう生活面でもしっかりとした指導が行われています▼つぎに部活動について。新座総合の生徒たちは身体能力が高い方ではないので、運動部の活動が不活発です。また部員の数も少ないです。私は現在、男子硬式テニス部に所属していますが、一年生は私を合わせて4人しかいません。二年生を合わせても全員で8人しかいません。来年度、男子硬式テニス部に是非来てください▼進路指導について。高校を卒業した後の進路先が就職の人も多いので二年生になると職業体験があります。また進路先についてのアンケートが時々あります▼最後に学校内の雰囲気について。電子機械科の先生は厳しいです。とくに日頃の生活習慣や態度についての指導が徹底しています。いっぽう、専門以外の先生方はおもしろい人ばかりで楽しいです。生徒と先生達との関係、生徒同士の関係もよく、いじめもありません。学校生活の雰囲気はよいと思います。



春の蔵めるこの一冊

入部 岳久

著者（2006年に56歳の若さで亡くなりました）がプラハのソビエト学校に通っていた頃の友だち - ギリシャ人のリッツァ、ルーマニア人のアーニャ、ユーゴスラビア人のヤスミンカ - との思い出と、それから30年後の再開を描いたものです。ソ連共産主義を背景として、様々な国から集まってきた生徒たちの話を、著者のユーモアを交えた読みやすい文体で興味深く読むことができます。ソビエト学校時代の著者はちょうど皆さんと同じくらいの年齢ですから、そういう意味で共感できる部分も、また時代や国の差を感じる部分もあるのではないのでしょうか。



『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』 よねはら まり 米原万里 著

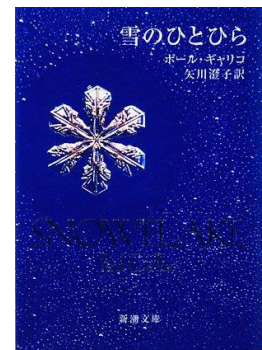
私はこの本を読んだ後、著者の他の著作もすべて読みましたが、どれも面白かったです。「外国語を学ぶのは母国語をきちんと習得してからにすべき」「優れた通訳・翻訳家として活躍する人は、古典から近代・現代の文学まで日本の本はすべて読んでいる」という話も、ロシア語通訳として活躍した著者のエッセイで読んだ記憶があります。

中学生の皆さんの中には、英語が好きで、将来は英語を使った仕事をしたいと思っている人がいるかもしれません。好きな科目が得意だということは素晴らしいことですが、他の科目、つまり日本語で考える科目も大切にしてください。

そこでもう1冊、とてもきれいな日本語で書かれた翻訳を紹介します。ひとひらの雪が、その一生を通して「なぜ自分は生まれたのか」「自分は何のために生きているのか」を自問する物語です。こう書くと難しそうに感じますが、実際には絵本、あるいは紙芝居のような感覚で難しさは感じさせません。

『雪のひとひら』 ポール・ギャリコ 著

ちなみに、この本の原題は『Snowflake』、辞書をひくと『雪片』とあります。これを『雪のひとひら』と訳せるでしょうか？



※ここで紹介された本は萌学舎文庫（自習室の本棚、2週間貸出）にあります。

◆ 行事予定

□ 2/18～25 期末テスト対策週間

（通常授業を1週間ストップし中学ごとに試験対策授業をします。詳しい日程表は別途配布します）

□ 3/1 中3入試直前最終講座

□ 3/2 公立高校学力検査

□ 3/2 新学期スタート（萌学舎では3月から新学年となります）

□ 3/10 公立高校合格発表（受験生は必ず当日3時までに結果を知らせてください）

□ 3/22 萌学舎卒業式（「ふれ愛プラザ」で卒業のお祝いをします）

【編集/加藤】